

# 2019年9月期 第1四半期 決算説明資料

2019年2月

フィンテック グローバル株式会社

(東証マザーズ : 8789)

<http://www.fgi.co.jp/>

# 2019年9月期 第1四半期 連結業績概況

**2018年11月9日にメッツアビレッジが開業。テナント賃料、利用料等の売上計上が始まる。来場者は12月2日に10万人を超え、順調に推移。**

**投資銀行事業は、安定的な収益を確保する体質へ改善。**

- 収益額は大きいものの、時期や規模が計算し難い投資回収中心から、不動産・航空機アセットマネジメント収入やアレンジメント手数料、メッツア賃貸収入等の安定的収入中心へ。—

## 売上総利益

投資銀行事業の業務受託は不動産アセットマネジメント業務、M&A関連業務が順調に推移。また、メッツアビレッジの開業と、子会社増加の寄与により売上高は前年同期比66.8%増加するも、投資回収（エグジット）案件がなく収益性は低下。売上総利益は前年同期比4.2%増の455百万円に留まる。

## 営業損益

メッツアビレッジ運営費用、2019年3月開業予定のムーミンバレーパーク準備費用、増加した子会社の費用等により、販管費は前年同期比77.3%増の1,202百万円。営業損失は、747百万円となる。

## 親会社株主に 帰属する 四半期純損益

非支配株主に帰属する四半期純損失211百万円（前年同期は45百万円の損失）により、親会社株主に帰属する四半期純損失は599百万円となる。

## 期末業績予想は変更無し。

当1Qの損失は、ムーミンバレーパーク開業前の先行費用によるもので、期初より想定。

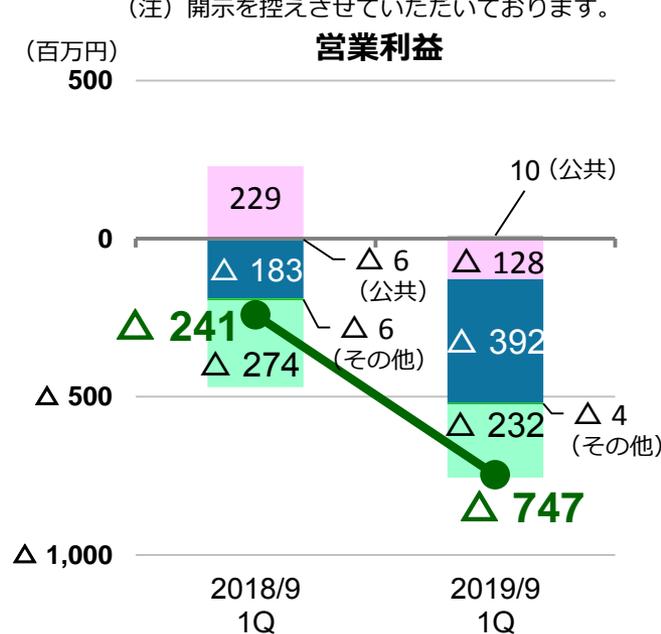
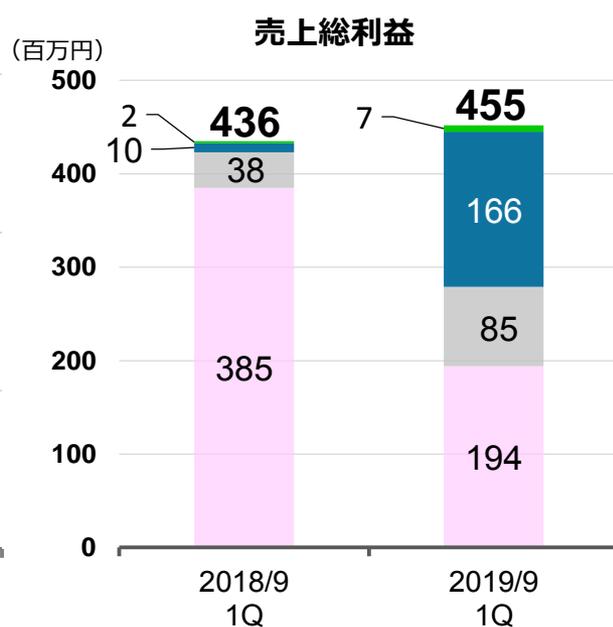
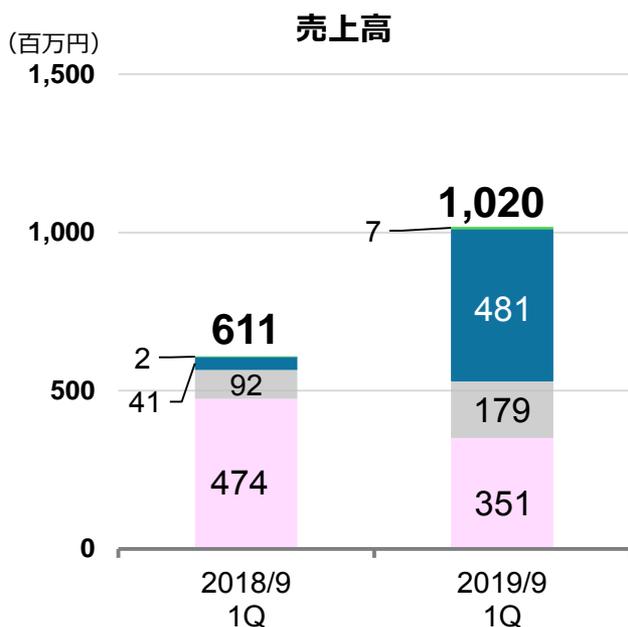
不動産AMやM&A関連等の業務受託売上は今後も増加見込。

投資回収見通しとこれまでのメッツアビレッジの来場者数を総合的に勘案し、期末業績予想の変更はしない。

# 連結業績ハイライト

(単位：百万円)	2018年9月期 第1四半期	2019年9月期 第1四半期	増減額	増減率	2019年9月期 通期業績予想	業績予想 進捗率
売上高	611	1,020	408	66.8%	11,040	9.2%
売上総利益	436	455	18	4.2%	6,880	6.6%
営業利益	△241	△747	△505	—	510	—
経常利益	△261	△804	△543	—	310	—
親会社株主に帰属する 四半期（当期）純利益	40	△599	△639	—	(注) —	—

(注) 開示を控えさせていただいております。



エンタテインメント・サービス事業から投資銀行事業が受け取るメツツァ賃料などのセグメント間取引は消去

投資銀行事業   公共コンサルティング事業   エンタテインメント・サービス事業   その他   全社費用及び取引消去※   営業利益

※全社費用は主に合理的な配分が難しいなどの理由により報告セグメントに帰属しない一般管理費、取引消去はセグメント間取引の消去です。

# セグメント別業績

【単位：百万円、各セグメントの売上高、売上総利益、営業利益はセグメント間取引を含む。】

報告セグメント		2018/9期1Q	2019/9期1Q	前年同期比	主な連結会社
投資銀行事業	売上高	480	405	△74	当社、フィンテックアセットマネジメント フィンテックグローバルトレーディング フィンテックM&Aソリューション FGIキャピタル・パートナーズ, SGI-Group
	売上総利益	391	249	△141	
	営業利益	229	△128	△358	
公共コンサルティング事業	売上高	92	182	90	パブリック・マネジメント・コンサルティング ジオプラン・ナムテック
	売上総利益	37	88	50	
	営業利益	△6	10	16	
エンタテインメント・サービス事業	売上高	43	484	441	ムーミン物語 ライツ・アンド・ブランドズ 飯能地域資源利活用合同会社 虎ノ門ハム
	売上総利益	11	131	119	
	営業利益	△183	△392	△208	
その他	売上高	2	7	5	アダコテック
	売上総利益	2	7	4	
	営業利益	△6	△4	2	
調整額 (セグメント間取引消去 又は全社費用)	売上高	△7	△60	△53	
	売上総利益	△6	△21	△15	
	営業利益	△274	△232	41	
連結P L計上額	売上高	611	1,020	408	
	売上総利益	436	455	18	
	営業利益	△241	△747	△505	

- ・ SGI-Group B.V.及びその子会社は、2018年9月期第2四半期より連結
- ・ フィンテックM&Aソリューション(株)、(株)ジオプラン・ナムテックは、2018年9月期第3四半期より連結
- ・ (株)ライツ・アンド・ブランドズは、2019年9月期第1四半期より連結

・ 調整額（営業利益）（2019年9月期1Qは△232百万円）には、セグメント間取引消去（2019年9月期1Qは61百万円）及び報告セグメントに配分していない全社費用（2019年9月期1Qは△293百万円）が含まれております。全社費用は、主に合理的な配分が難しいなどの理由により報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

# 2019年9月期第1四半期 セグメント別の事業状況

## 投資銀行事業

### 投資銀行 業務

#### AM業務/M&A仲介の売上が増加

- 不動産アセットマネジメント業務が、案件エグジットにより成功報酬計上。
- アセット投資は不動産投資案件の投資回収を決定するも、2Qに売上計上予定。
- 航空機アセットマネジメント（前期2Qから連結）は、堅調に推移。
- 前期に立ち上げたM&A関連業務は、成約件数が増加傾向。

### 企業投資

#### 投資先（子会社を含む）の成長支援

- 投資回収（案件エグジット）の実行はなし。新規投資は、子会社への追加出資が中心。
- ファンド投資（ライフサイエンス・プロジェクトの一部）で、評価損計上。

### メッツァ事業

（メッツァビレッジ  
開発事業）

#### メッツァビレッジは、ムーミン物語へのマスターリース開始

- メッツァビレッジは2018年10月竣工、11月9日開業。
- 定期建物賃貸借契約に基づき、2018年10月より当社がムーミン物語に賃貸。

## エンタテインメント・ サービス事業

#### メッツァビレッジが開業（2018年11月9日） ムーミンバレーパーク開業（2019年3月16日）へ向けて、準備が進む

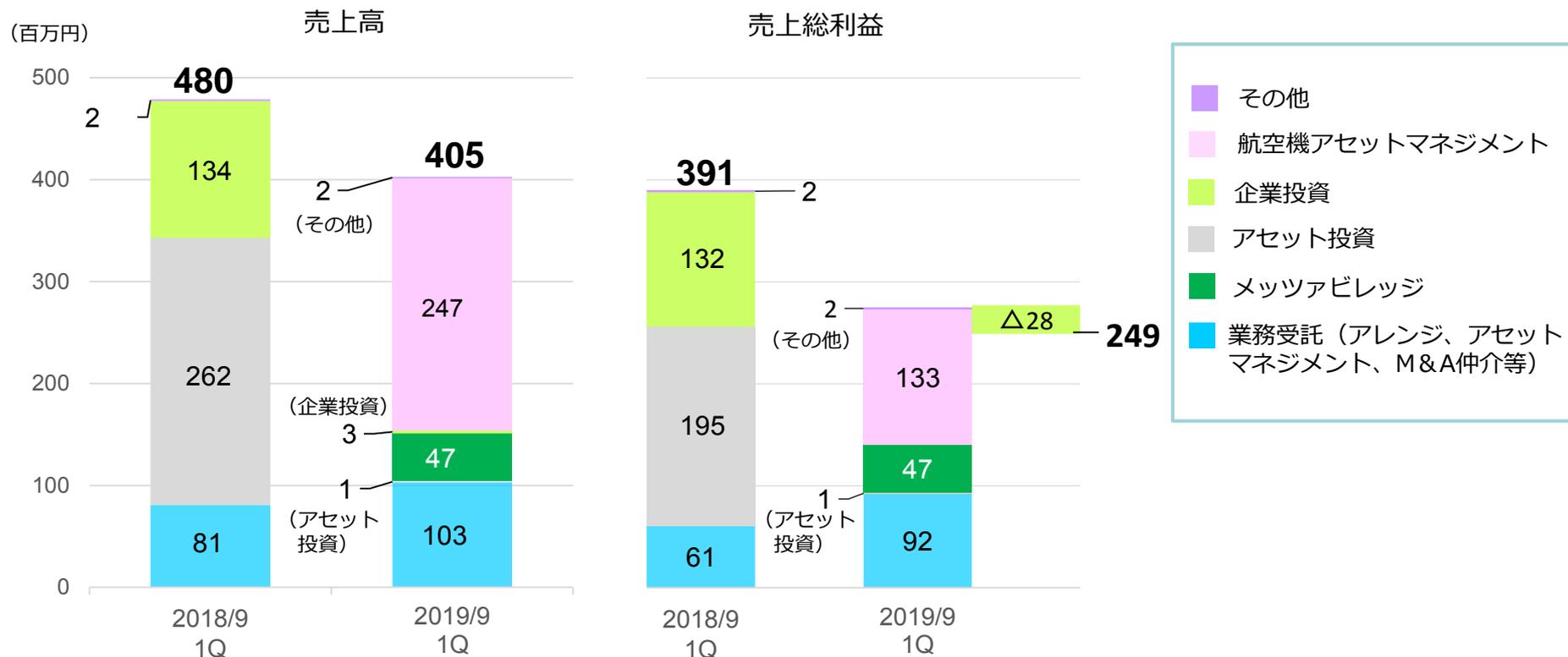
- メッツァビレッジは、順調に集客が進み、来場者は12月2日に10万人を超える。
- 12月1日から、「チームラボ 森と湖の光の祭」を開催（2019年3月3日まで）。
- ムーミンバレーパークの入園料（おとな1500円、こども1000円）、有料アトラクション料金を決定。
- 飯能地域資源利活用合同会社（ムーミンバレーパーク不動産保有）が、金融機関4行から56億円を借入。
- 当第1四半期より日本のムーミンのライセンスを一括管理するライツ・アンド・ブランド（ムーミン物語44.5%出資）を連結。

## 公共コンサルティング 事業

#### 公的セクターへのコンサル業務を拡大。営業活動を積極推進

- 公会計事業は、財務書類作成のコンサルとともに、PPP/PFI手法の導入検討等の営業活動を推進。
- 財務書類作成の既取引先である地方公共団体には、財務分析レポート作成、公営企業の経営戦略策定のコンサル受託の営業活動を推進。
- 都市インフラ管理システムに係る事業は、既存の保守案件が順調に推移。新規案件取込で、着実に拡大。

# 投資銀行事業セグメントー業務別売上高、売上総利益



## 業務受託売上増も、投資回収（エグジット）がなく、売上総利益は前年同期比36%減

- ・ 業務受託による手数料売上は、不動産AMとM&A仲介を中心に増加。
- ・ ムーミン物語に対するメッツアビレッジのマスターリースによる売上計上を開始（メッツアビレッジ）。
- ・ 投融資業務（アセット投資、企業投資）は投資回収案件がなく、企業投資は評価損計上。（航空機アセットマネジメントを行うSGI-Aviation Services等は前2Qから連結）

# 投融資残高の推移 (FGI,FGT合計)

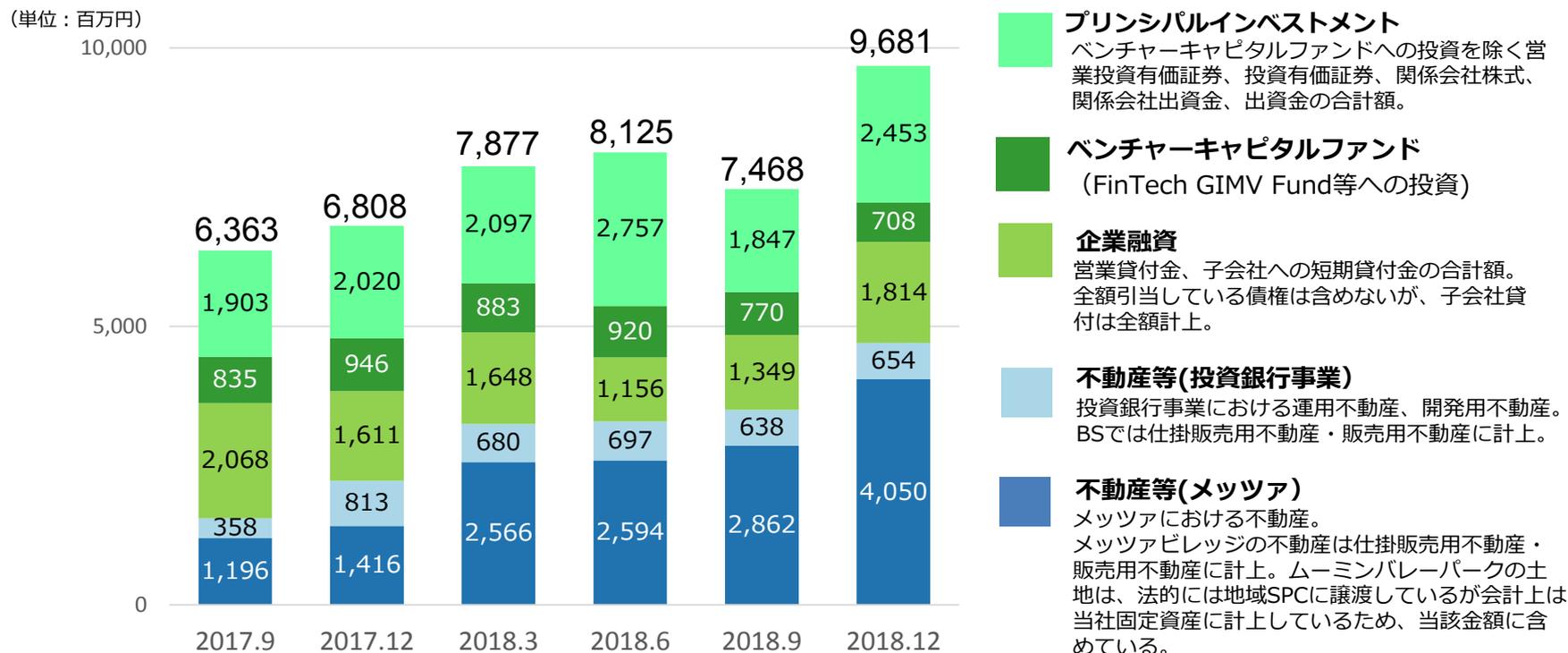
メッツアビレッジの建設工事が完了・引渡しを受けて、前期末比29.6%増の96億円となる。

2019年9月期1Q(2018/10~2018/12)の主な変動要因)

- ・プリンシパルインベストメント ファンド経由でムーミン物語へ追加投資。
- ・ベンチャーキャピタルファンド 一部出資先で評価損計上。
- ・企業融資 飯能地域資源利活用合同会社へ貸付実行により増加。
- ・不動産等 (メッツア) メッツアビレッジ竣工により増加。

## 当社、フィンテックグローバルトレーディングの投融資合計額 (子会社への出資を含む)

(注) FGI、FGT間の出資・貸付は、含めず。

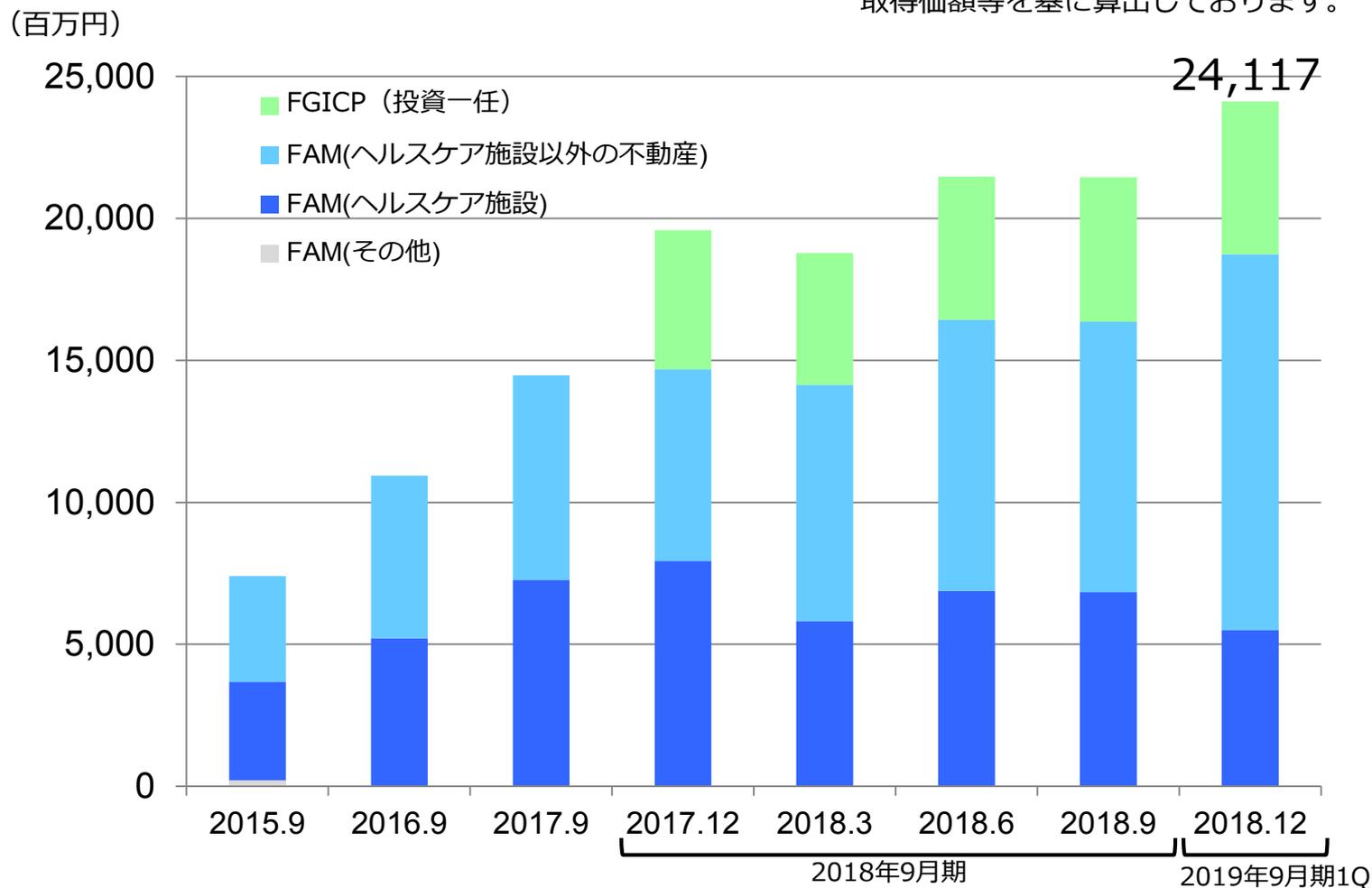


# 受託資産残高の推移

フィンテックアセットマネジメント (FAM)  
FGIキャピタル・パートナーズ (FGICP)

ヘルスケア施設の案件は、物件の一部売却により減少。一方で、開発型案件の工事進捗等による増加があり、グループの受託資産残高は前期末比12.4%増加。

※ヘルスケア施設：高齢者向け住宅を主とする施設  
※受託資産残高は入手可能な直近の財務諸表や不動産の取得価額等を基に算出しております。



# M & A 関連業務の取り組み活動

- ✓ ビジネスパートナー契約先からの事業承継案件の引き合いが増加傾向。
- ✓ 全国の会計事務所等とのビジネスパートナー契約を推進。（2018年4月～2018年12月で120件）
- ✓ 全国のビジネスパートナー先との共同セミナーや金融機関の顧客向けセミナーを開催。
- ✓ 事業承継を速やかに行うために、事業承継ファンド創設を検討。
- ✓ 事業承継だけでなく、再生案件の取り扱い件数も増加中。
- ✓ M&Aコンサルティングサービスをスタート。コンサルティングで企業の課題を解決し、より良いM & A成約を目指すサービス。
- ✓ M & Aオンラインシステム『F M A Crowdサービス(<https://fma-crowd.com/>)』の充実。

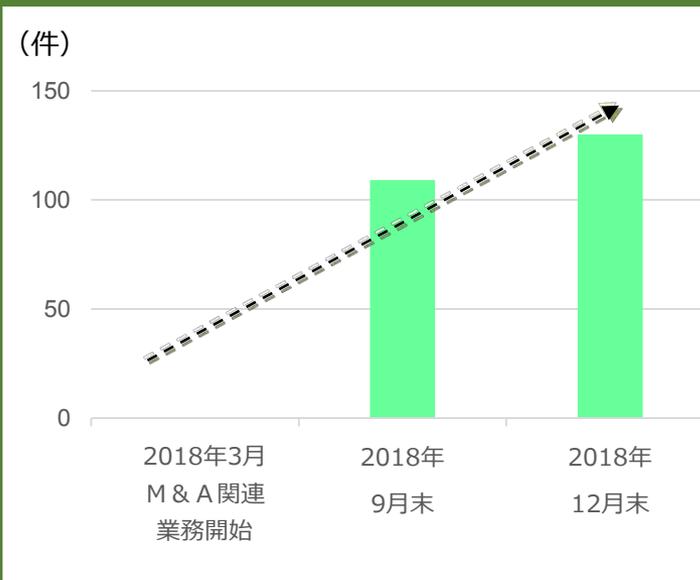
【M&A業務】 成約案件の一覧(2018年3月以降)

No.	譲渡企業		譲受企業		受託業務
	業種	地域	業種	地域	
1	建築業	首都圏	不動産仲介業	首都圏	仲介
2	不動産賃貸業	東海	不動産賃貸業	首都圏	仲介
3	商品企画業	首都圏	小売業	首都圏	仲介
4	不動産賃貸業	首都圏	小売業	首都圏	アドバイザー
5	不動産仲介業	首都圏	不動産賃貸業	首都圏	仲介
6	清掃業	首都圏	清掃業	首都圏	アドバイザー
7	建設業	首都圏	建設業	東北	仲介
8	介護	首都圏	介護	首都圏	仲介

【M&A関連業務】

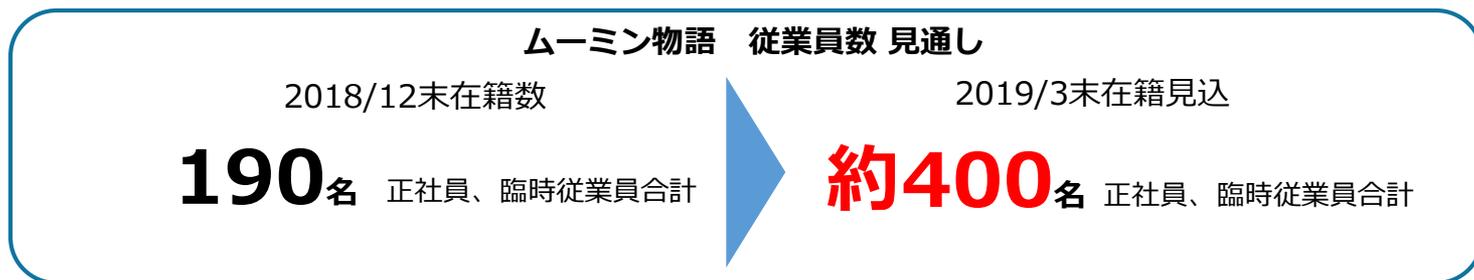
No.	業種	地域	受託業務
1	食品機械製造業	首都圏	経営支援
2	清掃業	首都圏	経営支援
3	特許取得業	首都圏	ファイナンス

ビジネスパートナー契約締結先の推移

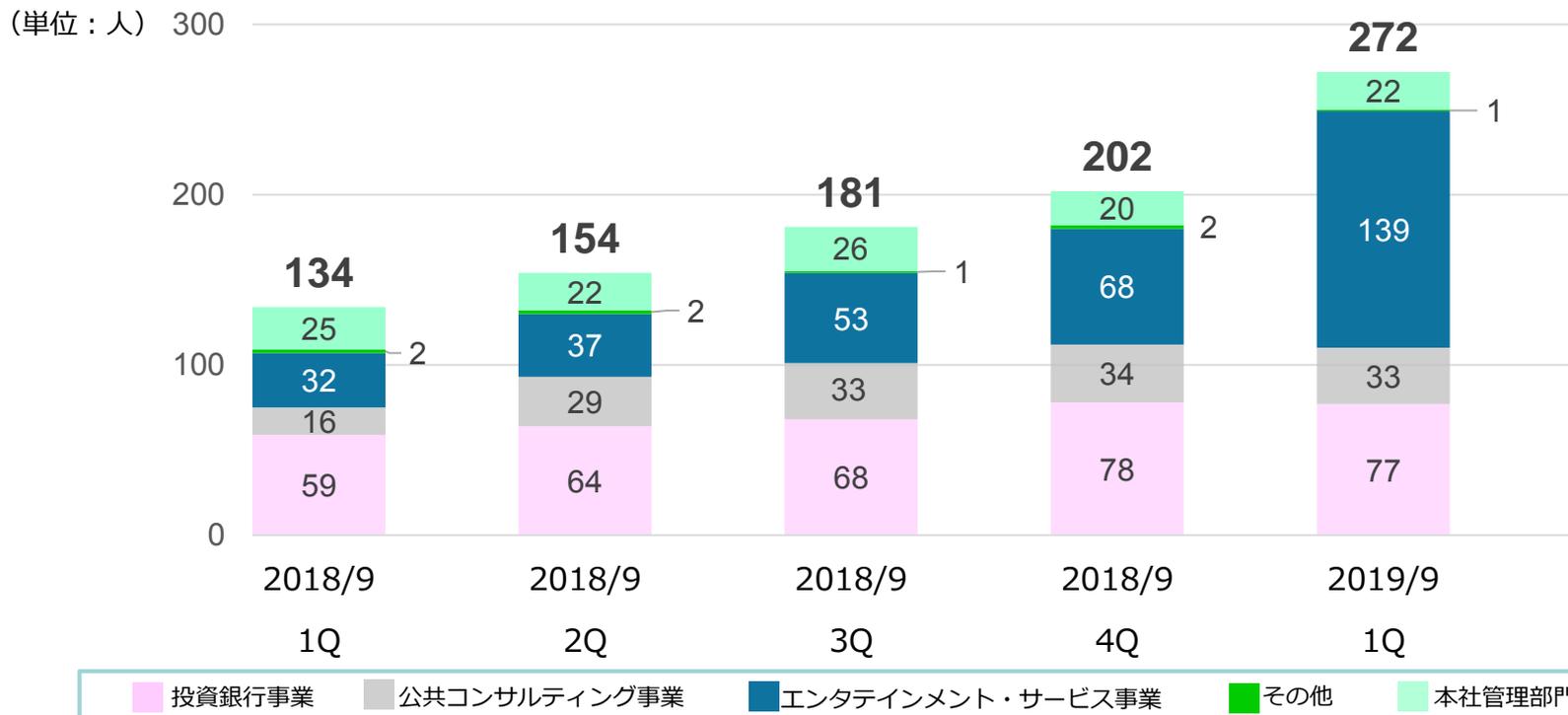


# 連結従業員数 (四半期推移)

メッツァ開業により、エンタテインメント・サービス事業で運営人員が増加  
投資銀行事業も、営業人員を拡充



正社員、臨時従業員の合計人員数の推移 (臨時従業員は、1日8時間換算の期中平均雇用人員数)



# 「ムーミンバレーパーク」入園料を決定

ムーミンの物語を主題とした「ムーミンバレーパーク」の入園料を決定。

「メッツァ」公式WEBサイト [ticket.metsa-hanno.com](http://ticket.metsa-hanno.com) にて、前売りを開始。

今後も、追加アトラクションを発表予定。

ムーミンバレーパーク入園チケット※1	おとな（中学生以上） 1,500円（税込） こども（4歳以上小学生以下） 1,000円（税込） ※3歳以下は無料
海のオーケストラ号 ※2	1,000円（税込） ※3歳以下無料
飛行おにのジップラインアドベンチャー ※2	1,500円（税込）
ムーミン屋敷 ガイドツアー ※2	1,000円（税込） ※3歳以下無料

## ※1 入園チケット

- ・ムーミンバレーパークへの入園には入園チケットが必要です。  
現地にて当日券の販売も行いますが、混雑状況によっては入場制限を行う場合があります。

## ※2 有料アトラクション

- ・当日券もあります。
- ・時間予約制となります。
- ・「飛行おにのジップラインアドベンチャー」は、身長120cm以上190cm未満、体重30kg以上100kg未満、乗車時にハーネスの装着できる方に限ります。施設スタッフの判断により、ご利用を控えていただく場合があります。



海のオーケストラ号 (イメージ)



飛行おにのジップラインアドベンチャー (イメージ)

Copyright© FinTech Global Incorporated

© Moomin Characters™



ムーミン屋敷 (イメージ)

# 投資商品組成等を目的として、第19回新株予約権を発行

2018年11月8日開催の取締役会で、第三者割当による第19回新株予約権（行使価額修正条項付）の発行を決議し、11月15日付の取締役会で発行条件等を決議。以下の内容で12月4日に発行。

2019年2月8日までに、101,995個（目的となる株式数10,199,500株）が権利行使。1,165百万円を調達。

項目	内容	
発行新株予約権数	150,000個	
発行価額	総額9,750,000円（新株予約権1個当たり65円）	
潜在株式数	15,000,000株（新株予約権1個につき100株、発行済株式総数対比8.1%）	
上限行使価額及び 下限行使価額	上限行使価額はない。 下限行使価額は59円。	
調達する資金の総額	1,759,350千円（差引手取概算額） 資金調達の額は、本新株予約権の払込金額の総額に、本新株予約権の行使に際して出資される財産の価額の合計額を合算した金額から、発行諸費用の概算額を差し引いた金額となる。なお、本新株予約権の行使に際して出資される財産の価額の合計額は、当初行使価額で全ての本新株予約権が行使されたと仮定した場合の金額である。行使価額が修正又は調整された場合には、資金調達の額は増加又は減少する。また、行使期間内に行使が行われない場合及び当社が取得した本新株予約権を消却した場合には、資金調達の額は減少する。	
行使価額及び 行使価額の修正条件	当初行使価額は118円とする。 2018年12月5日以降、行使価額は、本新株予約権の各行使請求の効力発生日の直前取引日の東京証券取引所における当社普通株式の普通取引の終値（同日に終値がない場合には、その直前の終値）の90%に相当する金額に修正されるが、かかる計算によると修正後の行使価額が下限行使価額を下回ることとなる場合には、下限行使価額を修正後の行使価額とする。	
募集又は割当方法	第三者割当ての方法による	
割当先	バークレイズ・バンク・ピーエルシー	
行使期間	2018年12月5日～2020年12月4日	
資金使途	①不動産小口化投資商品組成のための不動産（信託受益権を含む。）取得	1,050百万円
	②新たな投資商品組成及びM & A 対応	709百万円
支出予定期間	①2018年12月～2019年9月 ②2018年12月～2020年9月	

# 連結貸借対照表

## 資産の部

	18年9月期	19年9月期 第1四半期	増減
流動資産	9,879,178	10,249,221	370,042
現金及び預金	4,267,738	3,005,450	△ 1,262,287
1 受取手形・売掛金	644,824	744,827	100,003
営業投資有価証券	1,017,184	944,856	△ 72,327
営業貸付金	576,924	561,696	△ 15,227
2 販売用不動産	304,516	4,236,779	3,932,263
仕掛販売用不動産	2,781,914	24,220	△ 2,757,694
商品	15,298	9,672	△ 5,626
その他	388,011	827,808	439,797
貸倒引当金	△ 117,232	△ 106,090	11,142
固定資産	4,137,093	5,644,247	1,507,153
3 有形固定資産	3,317,713	4,140,206	822,492
4 無形固定資産	343,188	932,727	589,539
投資その他の資産	476,191	571,312	95,121
資産合計	14,016,272	15,893,469	1,877,196

・子会社の飯能地域資源利活用合同会社は、2018年10月に金融機関から56億円を借入れてムーミンバレーパークの建設資金を支払い建物を取得したが、決算期が6月であるため、連結上は第2四半期に反映予定。

・「税効果会計に係る会計基準の一部改正等」を2019年9月期より適用。2018年9月期についても、遡及適用。

1 ライツ・アンド・プランズ（RBJ）連結により増加。公共コンサルティング事業の自治体等向け売掛金も増加。

2 メッツァビレッジ、及びその他の不動産開発案件の竣工等により、販売用不動産が増加。（一部は、仕掛販売用不動産から販売用不動産に振替。）

3 メッツァビレッジが竣工し、ムーミン物語運営の店舗関連の施設等が増加（一部は建設仮勘定から振替）。建設仮勘定は、ムーミンバレーパークの内外装工事等により増加。

4 RBJ新規連結により、同社保有ののれん、開発中のコンテンツ関連資産が増加。

5 メッツァ開業のための借入金が増加。

## 負債の部 (単位：千円)

	18年9月期	19年9月期 第1四半期	増減
流動負債	4,802,029	6,543,130	1,741,101
支払手形・買掛金	293,215	285,555	△ 7,659
5 短期借入金	—	908,000	908,000
1年内返済予定の長期借入金	3,586,081	3,969,447	383,366
未払法人税等	73,216	55,085	△ 18,130
賞与引当金	114,928	115,332	403
その他	734,587	1,209,709	475,121
固定負債	663,091	1,008,846	345,754
5 長期借入金	532,787	786,238	253,451
繰延税金負債	3,001	2,025	△ 976
退職給付に係る負債	91,640	96,464	4,824
その他	35,662	124,116	88,454
負債合計	5,465,120	7,551,976	2,086,855

## 純資産の部

株主資本	7,313,879	6,918,830	△ 395,048
6 資本金	5,551,419	5,700,766	149,346
資本剰余金	4,149,561	4,198,048	48,487
利益剰余金	△ 2,387,101	△ 2,979,984	△ 592,882
その他の包括利益累計額	△ 2,588	△ 5,036	△ 2,448
新株予約権	54,605	51,996	△ 2,609
非支配株主持分	1,185,254	1,375,702	190,447
純資産合計	8,551,151	8,341,492	△ 209,659
負債純資産合計	14,016,272	15,893,469	1,877,196

6 主に第19回新株予約権の権利行使により増加。

# 連結損益計算書

(単位：千円)

	2018年9月期 第1四半期	売上比		2019年9月期 第1四半期	売上比	増減額	増減率
売上高	611,489	100.0%		1,020,148	100.0%	408,658	66.8%
売上原価	174,501	28.5%	1	564,807	55.4%	390,305	223.7%
売上総利益	436,987	71.5%		455,340	44.6%	18,352	4.2%
販売費及び一般管理費	678,376	110.9%	2	1,202,697	117.9%	524,320	77.3%
営業損失(△)	△ 241,389	△ 39.5%		△ 747,356	△ 73.3%	△ 505,967	—
営業外収益	5,802	0.9%		6,781	0.7%	979	16.9%
営業外費用	25,429	4.2%		64,019	6.3%	38,589	151.8%
経常損失(△)	△ 261,016	△ 42.7%		△ 804,593	△ 78.9%	△ 543,577	—
特別利益	279,941	45.8%		1,448	0.1%	△ 278,492	△ 99.5%
特別損失	—	—		178	0.0%	178	—
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	18,925	3.1%		△ 803,323	△ 78.7%	△ 822,249	—
法人税等	23,635	3.9%		7,310	0.7%	△ 16,325	△ 69.1%
四半期純損失(△)	△ 4,710	△ 0.8%		△ 810,633	△ 79.5%	△ 805,923	—
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△ 45,208	△ 7.4%		△ 211,278	△ 20.7%	△ 166,070	—
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	40,497	6.6%		△ 599,355	△ 58.8%	△ 639,853	—

1

アセット投資、企業投資による売上・売上原価が減少するも、メッツアビレッジ運営や、2018年9月期2Q以降に連結したSGI（航空機アセットマネジメント）、ライツ・アンド・ブランド（ムーミンライセンス事業）、ジオプラン・ナムテック（都市インフラ管理システム）等の売上・売上原価が増加。

2

メッツア開業のための人件費・支払手数料・広告宣伝費等が増加。  
2018年9月期2Q以降に連結したSGI、ライツ・アンド・ブランド、ジオプラン・ナムテック等の費用が増加。

## — ムーミンバレーパークへご招待 —

株主の皆様の日頃からのご支援に感謝するとともに、メッツァ開業を記念して、2019年3月31日現在の株主名簿に記録された3,000株以上の当社株式を保有されている株主様を対象に、メッツァ開業記念株主優待を実施。

### 1. 株主優待入園券

ムーミンバレーパークに無料で入園（個別課金施設は有料）

【ご利用期間2019年4月27日～2020年3月31日】

ご保有株式数	内容	
3,000株以上	ムーミンバレーパーク 株主優待入園券	2枚（2名様分）
5,000株以上	ムーミンバレーパーク 株主優待入園券	4枚（4名様分）

### 2. オリジナル手帳

1. の株主優待対象の株主様には、ムーミンバレーパークにご来園いただいた際に、ムーミンバレーパークのオリジナル手帳を受け取れる引換券を贈呈（株主様1名につき、1冊）

【引換期間2019年4月27日～2019年9月30日】

実施する方針とした株主優待は今回のみ行う記念優待であります。今後につきましては現時点では未定であり、当社の株主還元策を総合的に勘案して検討していく方針であります。

# 連結経営指標等の推移

		2014年 9月期	2015年 9月期	2016年 9月期	2017年 9月期	2018年 9月期	2019年9月期 第1四半期
売上高	(百万円)	3,911	5,429	7,485	7,182	3,689	1,020
売上総利益	(百万円)	2,398	2,495	1,496	1,626	2,261	455
営業利益又は営業損失(△)	(百万円)	555	115	△ 1,031	△ 1,319	△ 1,072	△ 747
経常利益又は経常損失(△)	(百万円)	684	237	△ 1,369	△ 1,341	△ 1,227	△ 804
親会社株主に帰属する当期純利益又は 親会社株主に帰属する当期純損失(△)	(百万円)	923	224	△ 1,384	△ 1,358	△ 820	△ 599
純資産	(百万円)	5,534	7,879	6,312	5,326	8,551	8,341
総資産	(百万円)	7,452	11,958	10,975	12,932	14,016	15,893
1株当たり純資産	(円)	37.41	48.31	38.66	29.64	39.31	36.56
1株当たり当期純利益 又は当期純損失(△)	(円)	6.92	1.48	△ 8.56	△ 8.39	△ 4.79	△ 3.21
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	(円)	6.89	1.47	-	-	-	-
自己資本比率	(%)	73.9	65.4	57.0	37.1	52.2	43.5
自己資本利益率	(%)	22.5	3.4	△ 19.7	△ 24.6	△ 13.5	-
株価収益率	(倍)	9.2	84.7	-	-	-	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△ 2,208	△ 1,791	△ 1,305	△ 1,153	△ 2,978	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	509	△ 644	△ 302	△ 1,026	△ 2,008	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	2,065	4,761	△ 751	2,937	5,771	-
現金及び現金同等物の期末残高	(百万円)	2,024	4,612	2,240	2,969	3,847	-
従業員数(連結) (外、平均臨時雇用者数)	(人)	109(7)	117(8)	114(20)	143(27)	156(47)	166(106)
従業員数(単体) (外、平均臨時雇用者数)	(人)	24(3)	38(3)	45(8)	40(6)	38(5)	40(4)

当社は、2014年4月1日を効力発生日として、1株につき100株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、当該株式分割が2014年9月期の期首に行われたと仮定して、1株当たり純資産、1株当たり当期純利益又は当期純損失(△)及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益を算定しております。

# フィンテック グローバル株式会社 会社概要

本店所在地	東京都品川区上大崎3-1-1 目黒セントラルスクエア15階		
設立	1994年12月7日		
代表	代表取締役社長 玉井 信光		
上場日	2005年6月8日		
証券コード	8789 (東京証券取引所マザーズ市場)		
事業年度	10月1日から9月30日まで		
事業内容	①投資銀行事業 ②公共コンサルティング事業 ③エンタテインメント・サービス事業		
発行済株式総数	189,103,600株 (2018年12月31日現在)		
単元株式数	100株		
資本金	5,700百万円 (2018年12月31日現在)		
連結純資産	8,341百万円 (2018年12月31日現在)		
大株主 (2018年9月30日現在)	玉井 信光	20,095,500	(10.80%)
	藤井 優子	3,576,400	(1.92%)
連結従業員数	166名 (2018年12月31日現在、臨時従業員含まず)		

フィンテック / FinTech (登録5113746)・FinTech Global (登録5811521)・フィンテックグローバル (登録5811522)・FGI (登録5113748)は、フィンテック グローバル株式会社の登録商標であります。

## 免責条項

本資料は、当社およびFGIグループの2019年9月期第1四半期決算に関する情報の提供を目的としたものであり、有価証券にかかる売買、金融商品取引に係る契約等いかなる商品の勧誘をするものではありません。

本資料に記載されている、各種資料・文書には、当社またはFGIグループに関連する見通し、方針、経営戦略、目標、予定、事実の認識・評価などといった、将来に関する記述をはじめとする歴史的事実以外の事実を記載しているものが含まれていることがあります。これらの歴史的事実以外の事実（以下、「将来情報」といいます）の記載は、当社またはFGIグループが入手した情報に基づく、当該資料・文書の日付（または当該資料・文書に別途明示された日付）時点における予測、期待、想定、認識、評価等を基礎として記載されているに過ぎません。また、見通し・目標等を策定するためには、過去に確定し正確に認識された事実以外に、見通し・目標設定等を行うために不可欠となる一定の前提（仮定）を使用しています。これらの記述ないし事実または前提（仮定）については、その性質上、客観的に正確であるという保証も将来その通りに実現するという保証もありません。したがって、これらの記述ないし事実または前提（仮定）が、客観的に不正確であり、将来実現しないという可能性があります。その原因となりうるリスクや要因は多数あります。将来情報は、将来発生する事象、リスク、不確実性を内包する要因を含んでおり、そうした前提は、当社またはFGIグループの実際の業務・業績に著しい悪影響を及ぼす可能性があります。かかる要因には、日本国、米国、アジアあるいはその他の国・地域における経済状況の悪化、不動産価値または株価の下落、FGIグループの貸出先の産業分野における企業破綻の増加やその他問題の発生、当社の経営統合およびコスト削減期待の実現の困難化または遅延、競争の激化、FGIグループの業務に関わる法令規則の改正、FGIグループにとって不利益となる日本国経済その他の政策の変更が含まれます。

なお、将来情報に関する記述を含む資料・文書が本資料に記載されている間においても、当該将来情報は上記のとおり当該資料・文書の日付（またはそこに別途明記された日付）時点のものであり、当社は、それらの情報を最新のものに随時更新するという義務も方針も有しておりません。